

社会医療法人財団 石心会 川崎幸病院

臨床研修プログラム

社会医療法人財団石心会川崎幸病院臨床研修プログラム

1. 目的

① 基本的目標

初期診療を含む基本的診療の知識・技能を習得するとともに、各科全般を広く理解判断する能力と、医師としての正しい態度を身に付けることを目指す。

② 研修方式

上記の目標を達成するため、厚生労働省の指針に基づき、本プログラムは1年次～2年次にかけて、内科系〔24週〕、救急〔12週〕、外科系〔8週〕、麻酔〔8週〕、放射線〔4週〕の研修を行い、救急当直においては2年間を通じて行い救急4週の研修扱いとみなす。

研修医の能力・進捗状況を鑑み、研修医とプログラム責任者である臨床研修部長および各科担当指導医との話し合いの上、内科系各科、外科系各科、救急・総合診療部、等といったフィールドを症例とする。

特に救急については多岐にわたる多くの症例があり、当院の特色となっている。この症例を1～2年次のほぼ全般を通して体験することにより、徹底した基礎技能を習得する。

2年次の地域医療は3施設から選択して行い、精神科・小児科・産婦人科を必修項目として行う。

残りの期間を選択科とし、救急、内科系外科系、麻酔科、精神科、小児科、産婦人科・地域医療・地域医療よりプログラム責任者と話し合いの上期間を設定する。内科系、外科系、救急の各基礎を徹底的に研修し、しっかりとした基礎を築くことにより後期研修へスムーズに繋げることを重視したプログラムである。

川崎幸病院は地域の救急診療の拠点であることから、救急研修は2年間の研修期間のほぼ全般を通して行い、急性期医療の実践に必要な各診療科の連携やチーム医療の重要性、患者と医師との関係を同時に経験する。

2. 年間研修計画

① 1年目

当院ではまず4月に、オリエンテーションや電子カルテ操作といった基本的手技の習得を行う。

その後は内科24週、救急12週、外科8週、麻酔科4週、放射線4週の研修を行い、更に救急は年間を通して随時当直を行い、2年間トータルとして充分な症例を経験する。

② 2年目

地域医療研修を4週間協力施設で在宅または離島研修を実施する。救急4週は2年次に屋根瓦方式をとり指導医と共に充分な指導体制をとる。精神科・小児科・産婦人科研修を必修として実施する。

選択科目は、内科系、外科系、救急、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科・地域医療・地域医療よりプログラム責任者と話し合いの上選択し、期間を設定する。

ただし協力型病院・施設での研修期間の合計にはある程度限度があり、個別に責任者との話し合いにて決定する。また、基本計画では協力型病院での精神科・小児科・産婦人科研修は各4週を設定しているが、施設により研修期間が1～12週となっているため、4週を超える分については選択科の期間を利用する。

必修科目：内科（基礎研修含）	[24週]	川崎幸病院
救急	[12週]	川崎幸病院
地域医療	[4週]	川崎幸クリニック（在宅）
地域医療	[4週]	薩摩川内市下甑手打診療所（離島）
地域医療	[4週]	名瀬徳洲会病院（離島）
外科	[8週]	川崎幸病院
麻酔科	[8週]	川崎幸病院

精神科	[4週]	栗田病院
精神科	[4週]	福井記念病院
精神科	[4週]	都立松沢病院
精神科	[4週]	日本医科大学附属病院
小児科	[4週]	日本医科大学武藏小杉病院
小児科	[4週]	済生会横浜市東部病院
小児科	[4週]	福島県立医科大学附属病院
小児科	[4週]	国際医療福祉大学熱海病院
小児科	[4週]	新百合ヶ丘総合病院
小児科	[4週]	横浜旭中央総合病院
産婦人科	[4週]	日本医科大学武藏小杉病院
産婦人科	[4週]	福島県立医科大学附属病院
産婦人科	[12週]	総合守谷第一病院
産婦人科	[4週]	伊東市民病院
産婦人科	[4週]	国際医療福祉大学熱海病院
産婦人科	[4週]	新百合ヶ丘総合病院
産婦人科	[4週]	武藏野赤十字病院
救急科	[4週]	日本医科大学千葉北総病院
放射線科	[4週]	川崎幸病院

選択科目： 救急、内科、外科、麻酔科、精神科、小児科、産婦人科・地域医療・地域医療
川崎幸病院内の診療科より選択。

選択する診療科と期間は、各研修医に補足すべきと思われる選択科と期間を
プログラム責任者と相談の上決定する。研修医の能力、個性、研修達成度
等によって、柔軟性のある対応を行う。

保健・医療行政 [4週] 幸正の苑

※ 選択しなかった診療科に関する研修到達目標については、救急研修や地域医療等の研修において
経験できるよう配慮する。

3. 主な研修内容

【基本的手技習得期間】

全ての研修医は、合同オリエンテーション後電子カルテの操作法、医療安全や医事に関する説明を受ける
【内科】（必修24週、選択）

指導医とともに入院患者を自ら受け持ち、マンツーマンで指導を受ける。臨床医として必要な内科的基本処置
を習得する。ここで言う内科とは循環器、消化器、腎臓/透析、その他を指す。内科の多岐にわたる疾患を受け
持ち、各専門分野の担当医に適宜コンサルテーションを受けるシステムとなっている。

【救急診療】（必修12週）

各種救急疾患、損傷に対する初診時の対応と、これに必要な技能知識を身につけるため救急・総合診療部にて研修、救急医療のシステムを理解する。研修時は、指導医とともに当直を随時担当し研修を積む。

2年間を通じて月5回程度の救急当直研修を行い、これをもって救急研修を4週実施と場合によってはみなすが実際に救急研修を必修で行う期間は合わせて12週となる。

当院は一般外来を分離しており、病院の外来は救急搬送、ウォークインの急患、紹介患者が中心となる。

診療科としては「救急・総合診療部」となる。救急・総合診療部は臨床全科の医師がそれぞれの科に属する以外に、救急・総合診療部に所属しローテーションで内科系外科系の枠を超えて救急患者のトリアージ・初療を担当する。専門については救急・総合診療部以外に各科当直があるのでコンサルト可能である。

また、2年次には日本医科大学千葉北総病院での救急科研修も選択可能であり、選択期間によってはドクターヘリの研修も経験できるプログラムとなっている。

【地域医療】（必修4週）

川崎幸クリニックでの在宅研修、薩摩川内市下甑手打診療所での離島研修、

または名瀬徳洲会病院での研修を行う。

【外科】（必修8週、選択）

外科もしくは外科系で8週の研修を行う。

病棟医として数人の患者を指導医と共に受け持ち指導を受ける。臨床医として必要な外科的基本処置を習得する。受け持ち患者の手術に参加し手技を習得する。単に手術の術式を習得するだけで無く、外科系全般の症例を通して、術前術後の管理、検査、診断、等を重視し、初期研修医としての基本を徹底的に訓練し、将来あらゆる専門医を目指すにおいても、その基礎となる知識を身につける。

【麻酔科】（必修8週、選択）

麻酔科指導医とともに各科手術に参加し研修する。病棟訪問も行う。

【精神科】（必修4週・選択）

患者や家族から病歴の聴取、状態像の把握など、診断に関する技術を身につけ、薬物療法、精神療法による治療の基本的な技能、知識を習得する。研修は協力型病院である栗田病院、福井記念病院、都立松沢病院または日本医科大学附属病院にて行う。

【小児科】（必修1～8週・選択）

一般的な小児疾患のほとんどを経験できる。またN I C Uを有しております新生児疾患も経験できる。

研修は次の4施設の協力型病院で行われる。プログラムの達成上、済生会横浜市東部病院（2名枠）、福島県立医科大学附属病院（2名枠）、国際医療福祉大学熱海病院（4名枠）は4週、日本医科大学武藏小杉病院（8名枠）は4週、新百合ヶ丘総合病院（8名枠）は4週、横浜旭中央総合病院（3名枠）は4週の研修期間を設定している。どれを選択するかは研修医の希望を聞き、他の研修医との調整の上で決定する。

【産婦人科】（必修1～12週・選択）

日常診療において遭遇する病気、病態について適切に対応できるようにプライマリケアの基本的研修を行う。

研修は次の5施設の協力型病院で行われる。プログラムの達成上、福島県立医科大学附属病院（2名枠）と伊東市民病院（3名枠）は4週、日本医科大学武藏小杉病院（8名枠）は4週、総合守谷第一病院（4名枠）は12

週の研修期間、新百合ヶ丘総合病院（8名枠）は4週、武藏野赤十字病院（2名枠）は4週の研修期間、を設定している。どれを選択するかは研修医の希望を聞き、他の研修医との調整の上で決定する。

【病理科】※1～2年次共通（必修〈随時〉）

受け持ちの患者が死亡し、剖検を実施する場合は、指導医とともに解剖に立ち会い、病理医より指導を受ける。CPCへの参加も行う。各科研修時に随時行うので、研修期間は特に設定しない。

【放射線科】※1～2年次共通（必修4週）

ER及び入院患者の画像読影の基礎知識及び様々な読影についての研修を行う。

【保健・医療行政】（選択4週）

協力型施設である幸正の苑〈介護老人保健施設〉にて老人介護の現状を経験する。

救急当直：

指導医とともに当直を行ない、指導医とともに診療にあたる。研修医の一人当直はしない。

カンファランスへの参加：

講演会、勉強会、CPC、合同カンファランス、各科のカンファランスなどに出席する。
外部研修や臨床研修部の必須研修となるものには原則参加とする。

4. 研修医の配置など

研修プログラムはあくまでも標準的なものであり、選択科の研修期間は臨床研修部で総合的に検討し、臨床研修委員会にて決定する。